



英国・ロンドンにおける同時多発テロ事件（2005年(平成17年)7月）（時事）

はじめに

二〇〇一年（平成一三年）九月一日に発生し、世界に衝撃を与えた「米
国における同時多発テロ事件」から四年が経過しました。各国政府はテロ対
策を強化し、テロに対する国際的な取組みは一定の成果を上げていますが、
イスラム過激派が世界各地でテロを敢行するなど、テロの脅威は依然として
高い状態で推移しています。

二〇〇五年（一七年）も、七月には、英国・グレンイーグルズで主要国首
脳会議（サミット）が開催されている中、同国の首都ロンドンで、地下鉄等
の公共交通機関を標的とした爆弾テロ事件が発生し、多くの死傷者を出した
ほか、一〇月にはインドネシア・バリ島で同時多発テロ事件が発生し、邦人
一人もその犠牲となりました。

我が国も、このような国際テロの脅威とは無縁ではありません。近年、オ
サマ・ビンラディンとされる者が発した声明等で攻撃対象として名指しされ
たほか、「アル・カーイダ」関係者が不法に我が国に出入国を繰り返していた
ことが判明するなど、我が国がテロの標的とされる可能性は否定できません。
こうした情勢を踏まえ、警察は、「テロリストを国内に入れない」、「拠点
を作らせない」、「テロを起こさせない」という観点から、各種国際テロ対策
を推進しています。今後、国内外の関係機関と緊密に連携しつつ、また、
国民の理解と協力を得ながら、情勢の変化に的確に対応した措置を講じ、テ
ロの未然防止に万全を期していきます。

掲載内容は二〇〇五年（一七年）一〇月末現在のものです。（特に記載の場合を除く。）